



中古放射線治療器機の開発途上国への供与プロジェクト

中東・イエメン共和国に 2011 年 1 月から本格的なブラキセラピー治療開始！



群馬大学の医師らでつくるNPO法人「放射線医療国際協力推進機構」（理事長・中野隆史群馬大学教授）が、10年近い年月の地道な国際貢献活動を経て、初めて、中東のイエメン共和国サナア市の第48モデル病院に放射線治療機器を寄贈することになった。「ブラキセラピー」と呼ばれる放射線治療機器一式が供与され、2011年1月24日同病院開院式で、イエメン共和国で初の小線源治療（子宮頸癌）が開始できる運びとなった。

2011年1月24日、イエメン国サナアの48モデル病院でのブラキセラピー治療棟の開院式には、病院関係者以外に、Dr. アリ マジュワル首相、アハマド アリ国軍司令官、をはじめ、軍事大臣、厚生大臣、通信大臣、貿易経済大臣、原子力委員会委員長、サラ大学副学長、日本大使館からは難波大使代理らが出席した。

アリ マジュワル首相による同治療棟入口のテープカットで式典が始まり、招待されたNPOの中野隆史理事長は、出席したDr. アリ マジュワル首相、アハマド アリ国軍司令官らにブラキセラピーの治療装置を分かりやすく説明した。首相からは日本の民間ベースの協力による本プロジェクトは大変重要で国際協力の最も美しい模範となる活動であるとの祝辞を頂いた。



また、48モデル病院長からは感謝の祝辞に加えて、これを契機に群馬大学ならびにNPOと本病院の間に研究協力協定を締結し、より強力な協力活動を展開して頂きたいとの要望があった。この祝典はイエメンの2大テレビ局で放映されるとともに、新聞の1面を飾った。日本人としての誇りを新たにした式典であった。

発展途上国では、急増するがん患者に対して医療機器整備の遅れが目立ち、十分な治療が受けられないまま亡くなる患者が後をたたない。イエメン共和国では、現在、放射線治療機器が全国にたった1台しかなく、放射線治療が必要とされる患者のほとんどが、放射線治療されることなく放置されているという厳しい現状に、本NPO法人は、日本で使われなくなった中古放射線治療器機を無償で入手して、周辺機器やメンテナンスの費用として寄付で集め、イエメン共和国のがん患者を一人でも多く救うため活動している。

問い合わせは同機構事務局（群馬大学腫瘍放射線学教室内）（027-220-8383）へ